

# DevOpsのこれからと Platform Engineering

2023/09/29

# DevOpsとは

- 「顧客に価値を素早く届けるため、開発・運用が協力する、文化的な姿勢・取り組み」のこと [^1](#)
- デプロイまでの流れを高速化し、開発・運用のサイロを取り除く文化が重要
- (企業によってポジショントークがあり、定義が異なるためややこしい)

# DevOpsの実践度

- IDC Japanの調査によると、DevOpsの実践率は年々伸びている。[^2](#)
- 2022年の調査では **59.3%** の実践率
- しかし、結論として「ビジネス上の効果が得られている企業は増えていない」とある。

DevOpsの**実践**は難しい

# 例:DevOps に求められる技術

学習ロードマップとして

```
Programming Language, OS,  
VCS, Containers, Cloud  
Providers, Network,  
Serverless, IaC, CI/CD Tool,  
GitOps, ServiceMesh etc...
```

などが挙げられている。[^3](#)

# つまり、DevOpsを落とし込むと、、、

エンドユーザーに届けるまでに多くの技術が関わる

開発者「こんなに  
意識しきれな  
い・・・」

# よくある導入

## DevOps Team Silo

### ^4

- 「DevOpsチームを新しく作ったから、DevからOpsに渡るまでのセットアップはよろしく！」
- マイクロサービスごとにセットアップを任せられる。



DevOpsチーム  
「管理しきれない・・・」

**デプロイ・運用までを  
抽象化できるPlatformが必要**

# Platform Engineeringの需要

# Platform Engineeringとは

- Garthnerの「先進テクノロジーのハイプ・サイクル：2022年」で登場 [^5](#)
- 開発者体験と生産性を向上させるためにセルフサービスで利用できるツールチェーンとワークフローを設計・構築する分野 [^6](#)

# どう変わるのか

開発者は抽象化されたセルフサービス基盤(IDP)でデプロイする [^7](#)

**開発者が多様なツールを意識せずとも  
開発に集中できるように**

DevOpsや共通基盤を  
言い換えただけでは？ 🧐

# Platform Engineeringは何が違うのか

- 顧客 = 開発者 として、『価値』を届けることを重視する。
  - 価値: 開発者の認知負荷を軽減する
- **Platformを製品として捉える**。=> 『Platform as a Product』
- ゴールデンプスを用意する [^8](#)

## 事例

- [開発者向けの基盤をつくる - メルカリ](#)
- [ヤフーで KaaS ベースの PaaS ができるまで](#)



**開発者を補助するための内部Platform  
を一つの製品としてデザインする  
=> 製品開発と同じアプローチを取る**

忘れてはならない  
**DevOpsは文化**

^9

# サイロと文化を改善する

- まず己の組織を知る
  - 組織文化のモデル化と測定 例: [Westrum の組織類型](#)
- 開発と運用の責任の共有
- アプローチ例
  - チーム間で同じ立場にある人同士で信頼関係を築く
  - 現場担当者に部署間の移動を促す
  - チームの協働を容易にする作業を推進し、成功すれば褒賞を出す
  - 情報共有のための場作り

文化改善も変わらず重要

# Platformで組織の文化を改善する

具体例はまだ思い浮かびません 🙄

「やりたいことなんてない。これから  
見つけられるかどうかもわからない。  
でもみんながやりたいことがあるなら  
それを援護することはできる」

SHIROBAKO © 「SHIROBAKO」 製作委員

DevOposは愛❤️



# まとめ

- DevOpsの実践はツール群の複雑な組み合わせにより実現され、認知コストが高い
- そこでPlatform Engineeringによる製品開発のアプローチで、開発者の認知コストを下げた開発フローを構築
- しかし、Platformのみでは組織は改善されず、文化改善のアプローチも重要
- 文化改善に繋がるPlatformをデザインすることが鍵になる(と思われる)

## ※ 蛇足

このスライドは **Marp** という  
Markdownをスライドに変換  
出来るツールで作っていま  
す。[^10](#)

スライドをMarkdownで管理  
してみたいそのあなた！  
是非お試しを！

参考: [Marp入門～応用 |  
markdownでプレゼン資料を楽  
に素早く作って発表しよう](#)